

潜宙艦 (宇宙戦艦ヤマト)

バンダイ ノンスケールプラスチックキット
製作・文 政府開発援助

1. 潜宙艦について

潜宙艦は白色彗星帝国第7遊動機動艦隊に配備されている小型艦艇である。敵の計器に引っ掛かることなく接近し魚雷で攻撃を行うことを目的にしており、艦体表面は可視光線や各種探信電波等を吸収出来るようになっている(アニメーションで初めて「ステルス」という概念が導入された)。土星空域での地球艦隊との決戦ではかなりの戦果を上げている。

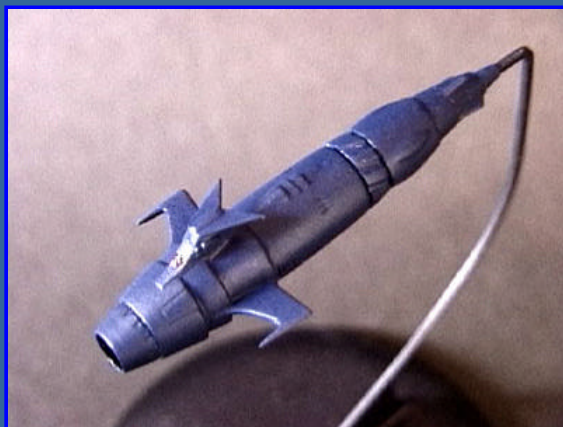
2. キットについて

ヤマトメカコレクションでも潜宙艦単独では発売されず、ガミラス艦に付属という形でキット化されました。劇中ガミラス艦との絡みは皆無でありこの組み合わせは謎でした。護衛艦や駆逐艦の様に同型2隻セットなら尚良かったのですが...キット化されただけでも良しとしましょう。部品点数は6点(飾り台固定用の軸部品除く)で省略箇所も無く細かいところまできちんと作られており、スジ彫りもいい感じです。艦体断面が真円ではないことが惜しまれます(艦尾方向から見るとおよそ5時方向と10時方向に張り出して歪んでいた)。

3. 製作と塗装について

今回、製作期間がさほど取れなかったため
(1)底部に穴を開けずに飾れるようにすること
(2)艦体の歪みを正すこと
(3)省略されているモールドを補うこと
に絞って製作を行いました。(1)については、真鍮角棒を用いて自作した汎用飾り台に固定できる様、艦尾から艦首まで真鍮管を通してあります。(2)については、もうヤスリ掛けあるのみです。この作業で失われる凸モールドはあらかじめワークの型想いをを用いて複製しました。(3)については、艦橋後部のフライホイール状の部分は本来は凹凸が交互になっているべき箇所なので思い切って切り飛ばし、小さ目の径の円柱に細切りのプラ板を貼っていきました。艦橋は小さいので前後にボリュームアップし、フィンも新造。主翼はそのまま取り付けると胴体との隙間が大きくなる為、前方にずらして調整しています。底面の噴射口等の凹モールドはドリルや彫刻等で追加しました。

塗装は全体にモデラーズの缶スプレーのダークブルーを吹いた後、艦首のセンサー部分のみエナメルカラーを筆塗りしました。銀色の上にクリアレッドを重ねています。スミ入れはいつものガンダムウエザリングマーカーです。ステルス艦ということで、最後にグンゼのツヤ消しクリアを吹いています。



上面



下面

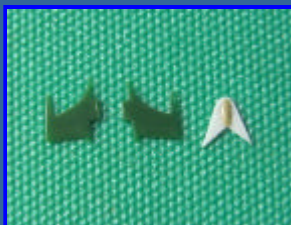
4 .製作過程



飾り台とのドッキング用の真鍮管を内蔵。木工用エポキシパテで固定した。



艦橋後部のフライホイール状部品はプラ板で新造した。隣はヒートプレスしたテールコーン、奥は元型。



主翼は翼端を尖らせた(胴体への付け位置はこの後修正)。艦橋のフィン?は0.3mmプラ板から。



黄色い部分はタミヤ速硬化エポキシパテによる造型。艦橋部分は前後にボリュームアップしている。